

ギンヒゲナガをハチ高原で撮影

植田義輔

ギンヒゲナガ *Nemophora askoldella* (Millière, 1879) は草原性のヒゲナガガ科の一種である。従来、本種は西日本からは知られていなかったが、近年になって鳥取県および島根県から発見された (松井, 2023)。

ところで、2024年に「兵庫県産蛾類分布記録データベース」がインターネット上で公開され (宇野ら, 2024)，兵庫県下のこれまでの蛾類の記録を調べる上で非常に便利になった。宇野 (2024) は、このデータベースの概要を解説しているが、この中でギンヒゲナガについて触れられている。これによると、本種は兵庫県では未記録であるが、隣の鳥取県からの記録があることから、今後新たに兵庫県から発見される可能性のある種であるとされている。筆者は過去に兵庫県で本種を撮影していたので報告する。本稿の作成にあたり、撮影画像で同定を確認していただいた、池田大氏・宇野宏樹氏・阪上洸多氏、現地調査に同行させていただいた近藤伸一氏にお礼申し上げる。

【データ】

1♂ (写真撮影・図1)・2exs (目撃), 兵庫県養父市大久保 (ハチ高原), 4.VIII.2017, 筆者撮影・目撃

ギンヒゲナガを撮影・目撃したのは、ハチ高原スキー場のゲレンデから小代越に至る登山道の道端である。撮影した1♂以外に2個体を目撃した。確認地点の周辺はススキ草原が広がっており、ススキの株と株の間にアザミ類・シシウド・ヨモギ等の広葉草本や、ハギ類などの低木が点々と生育していた。筆者が本種を撮影・目撃したのは16時半頃である。本種は夕方に草原上や低木上で群飛する (梅津, 2014; 松井・土井・中, 2018) とされているが、今回はこのような行動は確認できなかった。

ギンヒゲナガは、ススキ草原に依存している種と考えられており (松井ら, 2018; 田中, 2020; 松井,



図1 養父市産ギンヒゲナガ。

2023), ハチ高原の個体群についてもスキー場のススキ草原に依存しているのであろう。今後は、上山高原や砥峰高原などのススキの名所や、但馬地域のスキー場のススキ草地を調査すれば、新たな生息地が確認される可能性があると思われる。

○引用文献

- 松井悠樹, 2023. ギンヒゲナガ. 鳥取県生活環境部緑豊かな自然課 (発行), レッドデータブックとつとり第3版2022—鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物—, p.153.
- 松井悠樹・土井美春・中秀司, 2018. ギンヒゲナガの産卵行動と交尾個体の観察例. 蛾類通信, 285: 237-238.
- 田中政行, 2020. ギンヒゲナガ. 秋田県生活環境部自然保護課 (編集・発行), 秋田県の絶滅のおそれのある野生生物—秋田県版レッドデータブック2020—動物II [哺乳類・昆虫類], p.111.
- 梅津一史, 2014. 秋田県のヒゲナガガ科 (鱗翅目). 秋田県立博物館研究報告, 39: 3-9.
- 宇野宏樹, 2024. 兵庫県産蛾類の概観について 一兵庫県産蛾類分布記録データベースの作成にあたって—. きべりはむし, 47 (2): 12-27.
- 宇野宏樹・池田大・阪上洸多, 2024. 兵庫県産蛾類分布記録データベース. https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html (2025年5月30日閲覧)

(Yoshisuke UEDA 大阪府枚方市)

兵庫県川西市でシナチクノメイガを撮影

宇野宏樹

シナチクノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis* (Caradja, 1925) は、岩下・松井 (2022) によって日本初記録として報告されたノメイガの1種で、中国南部からの外来種と考えられている。兵庫県における本種の記録は、兵庫県美方郡香美町ハチ北高原が知られている (阪上, 2024)。筆者は、本種を記録がないと思われる川西市で撮影したので、報告しておきたい。阪急川西能勢口駅構内にいた個体を撮影した。

1ex. (図), 兵庫県川西市阪急川西能勢口駅. 17. VI. 2025. 筆者撮影.

○引用文献

- 岩下幸平・松井悠樹, 2022. 中国南部からの外来種



図. 兵庫県川西市で撮影されたシナチクノマイガ.

と考えられるノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis* (Caradja, 1925) の日本からの初記録. 蛾類通信, 300: 683-684.

阪上洸多, 2024. ハチ北高原から得られた蛾類 3 種の採集例. きべりはむし, 47(1): 68-69.

(Hiroki UNO 大阪府池田市)

兵庫県初記録のアブラムシ 2 種

菅藤康平

筆者が実施している兵庫県赤穂市, 兵庫県立大学附属高等学校周辺を中心としたアブラムシ類のファウナ調査で兵庫県初記録となるアブラムシを 2 種採集し, 興味深い知見が得られたので報告する. 本稿作成にあたり, 写真・情報の使用を承諾いただいた定 倫太郎氏, ウネビシンムネアブラムシの同定にご協力くださった青木重幸氏にお礼申し上げる.

(1) ウネビシンムネアブラムシ *Neodermaphis unebiensis* Sorin, 2006

1985 年に奈良県畝傍山でアラカシの枝から採集された 1 個体をもとに, 宗林氏によって 2006 年に記載された種で, その後は記録されていない.

今回の調査で兵庫県内の 3 地点から確認され, いずれもアラカシの枝から得られた. 周年アラカシの枝で生活すること, 秋ごろに幼虫が生まれるということが明らかとなった. 幼虫と思われる個体は, 成虫のすぐそばにいたことから幼虫と判断した.

赤穂市 塩屋高山ピクニック公園, 無翅成虫, 9. II. 2025; 無翅成虫, 9. III. 2025; 無翅成虫 (多数), 22. VIII. 2025 (図 1).

たつの市 新宮町角亀川付近, 無翅成虫, 23. VII. 2025.

上郡町 兵庫県立大学附属高等学校の駐車場, 無翅成虫, 8. IX. 2025; 無翅成虫及び幼虫と思われる個体, 16. X. 2025 (図 2).

(2) コルクガシミツアブラムシ *Thelaxes suberi* (Del Guercio, 1911)

本種はヨーロッパ原産の外来種であり, 日本では東京都から日本初記録として報告されている (Sasaki, 2023). その後, 神奈川県および大阪府においても確認されている (Sasaki et. al., 2025). 国内における本種の寄主植物については, 現在のところウバメガシ *Quercus phillyraeoides* に限定されている.

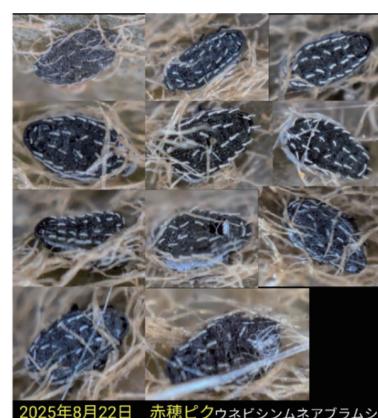
筆者は, 兵庫県赤穂市寿町のつばき公園 (兵庫県赤穂市寿町 3-3) において, ウバメガシの新葉に寄生する本種を確認した. また, 同時に本種に随伴していたハリブトシリアゲアリ *Crematogaster matsumurai* の存在も認められた. このアリ (図 7) については, 「日本産アリ類画像データベース」を参照し, 「触角べん節のこん棒部は 3 節からなること. 中胸背面は平たく, 側方で縁どられること. 前伸腹節刺は短く歯状で, 中胸背面側方の縁どりは鈍いこと」から同定した. 本種に随伴する種は, トビイロケアリ *Lasius japonicus*, アミメアリ *Pristomyrmex punctatus*, ハリブトシリアゲアリが知られている (Sasaki et. al., 2025). 筆者が調査を実施したつばき公園では, ハリブトシリアゲアリの随伴のみを確認している. また本種をシラカシで確認したとの情報もあるが (定氏, 私信), 筆者は未見である.

赤穂市 寿町つばき公園, 無翅成虫と幼虫 (多数), 22. VIII. 2025 (図 3-6); 無翅成虫と幼虫 (多数), 24. VIII. 2025.

引き続き, この 2 種を含め兵庫県におけるアブラムシ相を調査していきたい. 特にウネビシンムネアブラムシに関しては, 全国的に見ると発見例が少ないため, 新



図 1.



2025年8月22日 赤穂ピクウネビシンムネアブラムシ

図 2.